

あ お ば

No.92

令和7年3月14日発行
青葉中学校区青少年健全育成推進会事務局
札幌市立青葉中学校 011-891-4351

「闇バイトは犯罪です」

青葉中学校区青少年健全育成推進会 会長 唐原 元嗣

早春の候、地域の皆様におかれましては児童生徒の見守り、通学路周辺の除雪等にご協力を頂き心より感謝申し上げます。青少年を取り巻く環境はインターネットに移行したと言われた時代は過去となり、リアルな実社会での犯罪へ繋がりがつあります。個人的な意見ですが、メディアが闇バイトという言葉を使用していることに違和感を覚えてなりません。犯罪の実行役であり、バイトではありません。文部科学省よる各教育委員会に到達された事務連絡によれば、その実態は指示役が青少年を使い捨てる実行役として利用するもので、これに関わることが取り返しのつかない結果を招くことを青少年に伝え続けていくことが重要と考えていますとのこと。その他にも子どもから高齢者まで含めたインターネットのトラブル実例は総務省ホームページに紹介されていますので、ぜひ皆さんで共有してみてください。

3年間に渡り健全育成委員の会長を務めさせて頂きましたが、本年度をもって退任となります。皆様のご協力、ご支援を賜りこの場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。

※ 参考：総務省 上手にネットと付き合おう!安心・安全なインターネット利用ガイド

「つながりの1年間～保護者・地域・中学校と共に」

新札幌わかば小学校 教頭 香川 寛樹

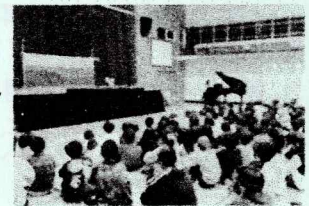
■10月には、開放図書館5周年を記念したお話会が行われ、全校児童が楽しいひとときを過ごしました。ボランティアの皆さんによる素晴らしい読み聞かせに、子どもたちは夢中になり、本の世界を存分に楽しむことができました。

■1月には、本校の保護者を中心に、バイオリン・チェロ・ピアノによるウインターコンサートが開かれました。子どもたちは聞き覚えのある曲に笑顔を見せながら楽しんでいました。生演奏ならではの迫力や優雅な調べに、会場は温かい雰囲気になりました。

■同じく1月には、「ちいきマッスル」が開催されました。運動を通じて、地域や学校のとながりがさらに深まる貴重な機会となりました。2月には「小中マッスル」という青葉中学校と連携したイベントも開催され、小中学校全児童・生徒の意見が反映された楽しい運動の機会をもつことができました。

地域や保護者の皆さまのご協力のもと、子どもたちの成長につながる時間をたくさんもつことができました。来年度も、これらのつながりを大切にしながら、さらに豊かな学びの場をつくっていきたいと思います。

関わっていただいた皆さんに、改めて感謝申し上げます。



「変わりゆく学校」

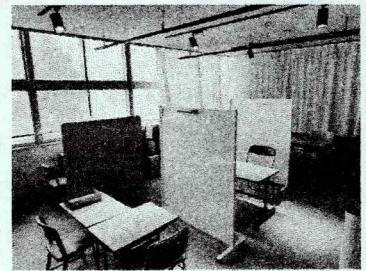
共栄小学校 教頭 村雲 聖治

令和5年に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下げられて、およそ2年が経とうとしています。学校の教育活動も、コロナ禍前に戻ってきています。しかし、全てが元に戻った訳ではありません。コロナ禍では、教育課程を工夫していく中で、どこの学校でもねらいを吟味し、そのねらいに即した活動を精選してきました。共栄小学校では、運動会の競技を短距離走と表現に絞ったり、学習発表会を、従来よりも発表時間を短くし、今まで学習したことを発表する場としたりしました。このような行事の精選は、コロナ禍が明けた今でも継続し続いています。

また、子どもの状況も変わりつつあります。ここ数年で個別の支援が必要な子どもが増えてきたように感じます。共栄小学校では、次年度から、校内の仕事分担・組織を改編することにしました。その一つとして学びの支援部という学びに関する担当部署を新たに設けます。そこで一人一人の子どもの学びの場を保障するための手立てを検討し、推進していきます。併せて多様な学びの場として登校支援室を設置し、環境整備に努めています。

更に、令和8年度には、厚別南中学校区パートナー校間で学校運営協議会を立ち上げてコミュニティー・スクール化をしていく準備を進めています。

時代や社会、地域の要請により、子どものためによりよい学校となるべく共栄小学校も変わっていきます。



「話を聴くこと」

事務局 堀 真一(青葉中学校 教頭)

今回は、子どもの話を「聴く」ことについてお伝えします。ご存じのように「キク」という言葉には「聞く」と「聴く」という漢字があります。「聞く」(Hear)とは『声や音が自然と耳に入ってくる』ことで、漢字の構造では『門構えの中に耳』が入っています。一方、「聴く」(Listen)とは『身を入れてきく、意識的に相手の話をきこうとする』ことで、漢字の構造では『耳+目+心』になり、『耳と目と心で話をきく』ということです。子どもの話を聴くときのポイントはどこにあるのでしょうか?以下、4点ほど提示しますので参考にしてください。

1 子どもの世界を教えてもらう

・子どもの言うことによく耳を傾ける。十分に聴くことによって、子どもの抱えている問題が分かり、子どもとの信頼関係が作られる。大切なことは信頼する人にしか語らない。

2 聴くための十分な時間を作る

・十分に話を聴くためには、それだけの時間が必要。中途半端に聴いたのでは、子どもは悩みやつらさを口にできず、失望感やいらいらがを募り、かえって逆効果になることがある。腰を据えて、じっくりと話を聴くことが大切。

3 あいづちを忘れない

・うなずいたり、返事をしたり、時には相手の言っていることを繰り返す。そうすることによって、子どもは話を聴いてもらっている、自分のことを分かっていると感じる。いわゆる「傾聴」の姿勢。

4 話を妨げない

・子どもの話をさえぎったり、批判したり、まとめたりしてはいけない。子どもの話を最後まで聴く姿勢が重要。そうすることで、子どもは自分の悩みや苦しみ、言葉に表せないつらさをはき出すことができる。それを知って初めてその子が抱えている問題が理解できる。



※子どもを理解するには、我々が心を込めて話を「聴く」ことが第一歩ではないでしょうか。

参考:兵庫県教育委員会「学校防災マニュアル」

学年末の安全に関して～融雪期の注意喚起～

- 雪山の陰からの車道への飛び出しやスリップした車両との接触、除排雪作業中の車両に近付くことは危険です。周囲の状況を確認しましょう。
- 気温の上昇による屋根からの落氷雪に十分注意を払うとともに、雪捨て場や道路わきの雪山等では遊ばないこと。公園の遊具などの根元に大きな雪洞ができていることがあります。